

当施設における MMR/IHC 検査の結果および MSI 検査との比較

◎田代 皓大¹⁾、山本 由佳¹⁾、石井 千愛¹⁾、森 侑汰¹⁾、菊地 真由子、松村 淳¹⁾、秋葉 浩一¹⁾、小澤 英樹¹⁾
株式会社 ピーシーエルジャパン¹⁾

【はじめに】

当施設では 2022 年 10 月 11 日より固形がん患者を対象に免疫チェックポイント阻害剤「ペムブロリズマブ」の適切な投与を行うためのコンパニオン検査として MMR/IHC 検査を実施している。

今回、弊社で 2022 年 11 月から 2023 年 10 月までの 1 年間で実施した 338 件を対象に pMMR と dMMR の統計結果及び同期間に BML で実施されたマイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査との相関を検討した。

【方法】

検査はロシュ・ダイアグノスティクス株式会社製ミスマッチ修復機能欠損検出キットで規定プロトコルに準じた染色を実施し、弊社病理医が判定を行っている。

【結果】

弊社で実施した MMR/IHC の検査結果は、pMMR が 297/332 件 (89.5%)、dMMR が 25/332 件 (7.5%)、判定不能 10/332 件 (3.0%) であった。
また、BML で実施された MSI 検査の結果は MSI-H5.9%、陰

性 93.9%、判定不能 0.2% であった。

以上のことから、MMR/IHC 検査は MSI 検査と比較して低コストかつ検体が少量であっても検査可能であることがメリットであり、同等の品質を保つことが可能であると言える。

【考察】

弊社では主に基幹病院からのブロックや未染スライドから検査を実施している。プレアナリシスには施設間差があるが、メーカー主催の講習会への参加、診断医のアドバイザーボードへの参加、判定に診断医が 2 名以上関わる体制をとっているためばらつきは少なかったと考えられる。

今回、MMR/IHC と MSI の結果に差異がみられたが、これは母集団の大きさの違いによって生まれた差であると考えられる。今後は、MMR/IHC の統計を継続し MSI 検査との相関について注視していきたい。

また今回実施しなかった同一検体による MMR/IHC と MSI 検査の比較検討も継続的にしていきたい。

連絡先：049-234-7301